

特定非営利活動法人

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース



フジチドリ *Gymnadenia fujisanensis*

も く じ

生物多様性交流フェアを見学して・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
活 動 レ ポ ー ト	
総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
調査員会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
臨時調査員会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
第1回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 4
第2回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5
第3回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5

2010 年 10 月 11 日より 29 日まで「生物多様性条約第 10 回締約国会議」いわゆる「COP10」が名古屋国際会議場で開催されました。それと同時に会議場に隣接する白鳥公園や熱田神宮公園で「生物多様性交流フェア」が世界各国や国際機関、NGO/NPO、学術、企業、自治体など約 200 を超える団体がブースを出展しました。

もめにもめ採択された「名古屋議定書」はそれぞれの国の利害関係が複雑に絡み、新聞に書かれた要旨を見ると、私が考える「生物多様性」とは無関係のように感じられる。

しかし、生態系保全の世界共通目標「愛知ターゲット」には、われわれNPO活動にとっても重要な内容が示されている。特に関係すると思われる項目について下記に載せるので、再確認し記憶しておくことが必要であろう。

[全体目標]

2020 年までに健全な生態系を確保し、それによって人間の豊かな生活が保証され、貧困根絶につながるよう、生物多様性の損失を止めるための効果的な緊急行動を起こす。

これを確実にするために、生物多様性への圧力を減らし、生態系を回復させ、生物資源を持続的に利用するとともに遺伝資源の利用から生まれる利益を公正かつ公平に配分し、十分な資金を提供する。

[個別目標]

- ・20 年までに、森林を含むすべての動植物の生息域の損失速度を可能ならゼロに近づけ、少なくとも半減し、劣化や破壊を大幅に減らす。
- ・20 年までに、侵入した外来種および進入経路を特定し、どの外来種から先に制御、根絶するか優先順位をつけた上で、侵入を防ぐための対策をとる。
- ・20 年までに、少なくとも陸域の 17%、海洋の 10%を効果的に保護する。
- ・20 年までに、知られている絶滅の危険がある種が絶滅することを防ぐ。
- ・遅くとも 20 年までに、愛知ターゲットを実施するための資金を現在より大幅に増やす。

私は 10 月 25 日、26 日の 2 日間会場を訪れ、各ブースを見学しながら資料を集める作業を繰り返した。特に、興味あるブースでは時間を割いたが、なにせ 200 を超えるブースがあり、資料の重さも加わり後半は体力勝負となってしまった。

自治体関係では、埼玉県をはじめ隣接県の千葉県、山梨県、長野県などがパネル展示やパンフレットの配布を行っていた。東京都からは西武・狭山丘陵パートナーズが参加しており、その活動が紹介されていた。政府関係では農林水産省、環境省、国土交通省、経済産業省、文部科学省などが相変わらずの縦割り行政の見本市をやっている状態で、全ての予算を 1 本化したら素晴らしい仕事ができるのではないかと今更ながら腹立たしい思いでいっぱいとなった。

しかしながら、どこを回っても若者が目につき、彼らの働きを見ていると、この国の将来は決して悲観だけではないとの思いをいだかされた。

活 動 レ ポ ー ト

【総会】

日 時：平成22年6月13日（日）10：00～12：00

場 所：埼玉県立自然の博物館 2階講堂

出席者数：会員45名中35名（内書面による出席9名）

当日は、新役員、平成21年度事業報告、決算報告、平成22年度事業計画、予算案、賛助会員の年会費（一口3000円）などが審議承認されました。

新役員 代表理事 高橋重男 副代表理事 牧野彰吾、永戸健、矢島民夫、山口征矢、
理事 岩田豊太郎、太田泰弘、尾形一法、木口博史、田中實、山下裕

監事 原口和夫、森広信子

総会に先立ち理事会が開催されました。

日 時：平成22年6月13日（日）9：10～10：00，

場 所：埼玉県立自然の博物館 会議室

出席者数：理事11名中9名（内書面による出席1名）

愛川敬武代表理事の逝去にともなう後任人事、平成21年度事業報告、決算報告、平成22年度事業計画、予算案などが審議されました。

11：10～11：25 第2回目の理事会を開催し、代表理事に高橋重男、副代表理事に牧野彰吾、永戸健、矢島民夫、山口征矢氏が選出されました。

【調査委員会議】

日 時：平成22年6月13日（日）13：00～15：30

場 所：埼玉県立自然の博物館 2階講堂

出席者数：会員24名

2010年度に行うべき業務として

- 1 レッドデータ植物の調査不十分地区の調査（特に維管束植物）
- 2 外来植物の調査不十分地区の調査
- 3 希少野生植物種の調査
- 4 2005レッド植物のランク見直し（維管束植物、蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）
- 5 再改定「埼玉県レッドデータブック2011」の執筆

が挙げられ事務局からそれぞれの項目の説明がなされました。

5の「埼玉県レッドデータブック2011」については、執筆内容（予想）の項目、執筆分担等

について検討されました。

【臨時調査員会議】

日 時：平成22年10月11日（月） 10：00～15：30

場 所：川越市生活情報センターコミュニティールームB（アトレ地下1階）

参加人数：25名

1 埼玉県レッドデータブック 2011 の原稿作成について

(1) 構成について

(2) 執筆要領

(3) 執筆分担

- ・ 維管束植物
- ・ 蘚苔類
- ・ 藻類
- ・ 地衣類
- ・ 菌類
- ・ 希少な植物群落
- ・ 在来の植生に悪影響を
及ぼす侵入的外来植物
の現状



2 埼玉県レッドデータブック 2011 の新ランク見直し
などについて検討されました。

【第 1 回 野外観察会】

日 時：平成 22 年 5 月 27 日（木） 10:00～15:00

場 所：寄居町末野から車山

参加人数：28 名（指導者：高橋重男・矢島民夫理事）

天 気：晴れ

活動内容： この日、寄居町末野の荒川を堰止めた玉淀ダムの近くに、公開講座参加者の 28 名が集合した。これから折原大橋を渡って折原上郷に入り、さらに釜伏登山口の秋山地区の妙通寺でキンモウワラビの群落を観察し、鉢形城落城の折、前田軍が当時の大筒を引き上げたという車山に登る計画である。

集合地点の広場から折原大橋に向かう途中の斜面で早速珍しいつる性の植物に出合った。緑肥として畑に作るビロードクサフジかと思って茎を調べたが殆んど軟毛がない。私が困っていると、今回遠くから参加してくれた事務局の矢島さんがナヨクサフジですよと助けてくれた。ダムのやや下流に架けられた大橋を渡り折原下郷に入る。民家の庭にクロロウバイが満開である。ロウバイ属とは花の構造が大変異なり、子房の囲りでめしべの柱頭の高さまで花托が肉質に盛り上がり、子房との間に僅かに隙間を作っている。シロロウバイと共に米東部原産の栽培品である。

折原上郷の集落を過ぎて荒川の河川敷に下りる。小石混じりの砂地を歩いているとヘラオオバコに似て白毛におおわれたオオバコが生えている。エゾオオバコとも違うようである。又もや矢島さんが助け舟を出してくれて、ツボミオオバコだという。周辺にはイヌドクサやメマツヨウグサの株が点在している。

折原上郷の対岸は昔から有名な象ヶ鼻公園である。三波川結晶片岩系の緑色片岩が象の鼻のように流れの中に伸び、奇観を呈していたが、昭和初期の洪水で惜しくも折れてしまった。河原の礫の間に根を下しながら、ツルヨシの長いつるが伸びている。河原の砂礫を

洪水から確保する植物群落の先駆者である。

河原の段丘の上へあがると、崖の上に佐太彦神社が、うっそうと茂る杉木立の中にあった。入り口には数株のヤマボウシが白い苞を平開させ正に満開の状態で、皆さんが歓声をあげて見とれた。タブの大木の下で小休止し更にもう一段河岸段丘を登って江南台地を横切って秋山地区の妙通寺に向かう。途中の斜面はコナラ、ヤマザクラ、エゴノキなどを高木として、ヤマウルシ、コマユミ、ヒサカキ、クロモジ、オトコヨウゾメなどを低木とする乾燥した落葉広葉樹林である。

やがて妙通寺に着く。この寺は無住職であるが、南面したこの寺の石垣の間に、キンモウワラビの群落が見付かっている。石灰岩地帯に特有のこのシダを紹介し、埼玉県内では可成り珍しい絶滅危惧植物Ⅱ類に属することや採集しなで見守り、保護して欲しい旨を告げて昼食とした。

午後は折原地区のほぼ中央にある車山に登る予定である。車山の尾根では、かつておしべが10本あるオオヤマツツジが見つかっている。（高橋）



【第2回 野外観察会】

日時：平成22年10月15日（金）10：00～15：00

場所：小川町金勝山から官の倉山へ

参加者：25名（指導者：高橋重男理事）

天気：晴れ

活動内容：この日、比企郡小川町の東武竹沢駅に集合した私達は全員で25名、これから少年自然の家があった金勝山を経て官の倉山へ登る計画である。

線路に沿った道を折り返し寄居方向へ進んだ。右手は斜面の下に線路が走り、枯れた葉をつけたオオブタクサ群落に混って、セイタカアワダチソウやススキが見え、ガードレールにはクズのつるがからみついている。早速、ススキとオギの見分け方を説明しながら進むと、東登山道の標識があり左手の山道に入る。

ここ竹沢地区の山は表土のローム層が浅く、コナラ、クリ、リョウブなどがエゴノキ林に混じって夏緑樹林を形成している。この山塊は昔からエゴノキの生育に適していて、鉢形城落城の折、敗走して来た北条軍の下級武士達が住み着き、エゴノキの徒長枝を材料として作った「すいのう」（熱湯の中からうどんなどを掬う道具）を売って生計を立てていたといわれる。

山道を少し進むと、リョウブ、アカメガシワ、ヤマザクラに混ってゴンズイ、ニワトコ、オトコヨウゾメなどが生育する湿地帯に出た。道端に開花中のシロヨメナとキバナアキギリの群落、その先に紅紫色の花を釣り下げたツリフネソウが目につ

く。ノダケやヒカゲミツバも混っている。日陰に入るとベニシダ、イノデ、フモトシダ、イワガネゼンマイなどシダ類も豊富である。

やがて山の斜面が急峻となり、ゴツゴツとした岩盤が顔を出してきた。コナラの根元にはコマユミやコウヤボウキ、ノガリヤスなど乾燥に強い植物が点々と生えている。北側に開けた頂上より眺めは、新たに寄居町で開業する自動車工場の家屋の建設が完了し、稼業を待っている状態である。頂上から少し下ったところには旧少年自然の家の天体観測ドームが太陽光を反射して光っていた。

山を下り竹沢集落の県指定重要文化財吉田家の見える丘で昼食とした。吉田家は2階で蚕を飼うのに適した造りの農家である。

昼食後は官の倉山へ登る予定である。（高橋）

【第3回 野外観察会】

日時：平成23年2月26日（日）

場所：狹山市・稲荷山公園（午前）、入間市・入間向陽高校 生物室（午後）

参加者：25名（指導者：山下 裕会員）

天気：晴れ

活動内容：早春の植物の観察と顕微鏡による植物観察

9時45分 西武線・稲荷山公園駅に集合し、午前中は園内の植物を観察しました。この時季は、草本では根生葉（地上茎がごく短く、葉はすべて根ざわから出る。これが集中してつき、放射状に見える形をロゼットといいます。ロゼットはバラ模様（ローズ）からきた語です。）の観察をしました。このロゼットは今の時期に良く観察することができます。これらのロゼットからブタナ、セイヨウタンポポ、ナズナ、ウラジロチチコグサ、ヘラオオバコ、オオバコ、ハルジオン、キュウリグサ、ハハコグサ、カラスノエンドウ、オランダミミナグサ、コハコベ、ツメクサ、シロツメグサ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、オオイヌノフグリなどが識別できました。特に、シダ植物のフユノハナワラビが数株みられ、興味深かったです。

午後は、ここから15分ぐらい歩いて、入間向陽高校の生物室に移動しました。双眼実体顕微鏡を使って、家や途中で生育している路傍植物などを、顕微鏡下で観察しました。いつもはルーペを使って、現地で植物の細かいところを見ていましたが、じっくり落ち着いて、室内で観察する事により、いままで気づかなかった植物の姿を、一瞬垣間見ることが出来ました。携帯やデジカメで顕微鏡写真を撮っていた参加者もいました。



【あ と が き】

編集作業を始めると、東日本大震災のニュースが重なり複雑な気持ちで、なかなか仕事が進まない状態となってしまいました。自然の強烈な力の前には、いかに人は無力であるかを考えざるを得ない思いです。それにひき換え福島原子炉災害を考えると、我々はいかに傲慢であったかを思い知らされます。ともあれ今は、一日も早い復興と少しでも被害の少ないことを祈るばかりです。

今年度も埼玉县委託事業として「21年度埼玉県レッドデータ植物編再改訂調査」と、「21年度希少野生動植物の候補種選定調査（植物）」が昨年度より継続となり、一部調査活動と執筆が重なり、皆様には大変忙しい年となりました。

NPO法人としては当初計画された事業「年3回の観察会」を含め計画どおり実施することができました。会員の皆様のご協力に感謝します。

＜表紙の写真＞ フジチドリ 情報不足（山梨）・絶滅危惧Ⅱ類（国）

樹幹に着生するランの仲間で、埼玉県ではまだ記録されていません。分布は名前に見られるように富士山周辺（山梨、静岡、神奈川）とされていたが、のちに東北北部（青森、秋田、岩手）や新潟県でも発見されている。写真は埼玉県境よりの山梨県側に生育しているもので、もしかしたら埼玉県でも生育が期待されます。

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース

2011年3月31日

編集・発行 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

発行責任者 矢島民夫

発行所 〒340-0012 埼玉県草加市神明2-2-48

TEL・FAX 048-924-7288

事務局 〒350-0042 埼玉県川越市中原町2-10-1

TEL 049-224-1003